令和５年度　校内研究実施計画書

１　研究主題及び教科

研究主題	どの子も「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる算数科教育 ～ICT 機器を用いた学び合いのある授業づくりを目指して～
教科・領域	算数科

２　主題設定の理由

本校は３年前より研究教科を算数，研究主題を「どの子も『分かる喜び』『学ぶ楽しさ』が味わえる算数科教育」とし，研究を進めてきた。「分かる喜び」とは，初めは分からなくてもだんだんと学習が分かっていく喜びである。「どういうこと？」「ああ，そういうことか。」と児童が実感できるように，主に ICT 機器を活用した教材開発に力を入れてきた。「学ぶ楽しさ」とは，話し合い活動の中で多様な考えを知ることができた，自分の考えに自信が持てた，友だちと協力したら課題が解決できたといった楽しさである。自分の考えをもつ場面と友だちと考えを交流する場面を設け，楽しさを感じられる場面設定を行ってきた。

昨年度は，研究の副題を「ICT 機器を用いた効果的な授業づくり」と設定し ICT 機器をどのような場面でどのように活用すると主題に迫ることができるのかを模索した一年であった。成果としては以下の点が挙げられる。

１つ目は,「授業の場面毎に目的に合った ICT 機器の効果的な活用をしよう」と取り組み，有用性を見つけた点である。

１．授業の導入の場面では，絵・図などを使って興味を引きやる気を引き出せること，また，課題の条件などを精選してわかりやすく伝えることができたこと

２．自分で考える場面では，ワークシートを配らなくても一斉に取り組み，図を動かしたり線や言葉を書き加えたりしてみんなの考えを知り合うことができたこと

３．伝え合う場面では，拡大投影機を使って簡単にノートの意見が全員で共有できたこと

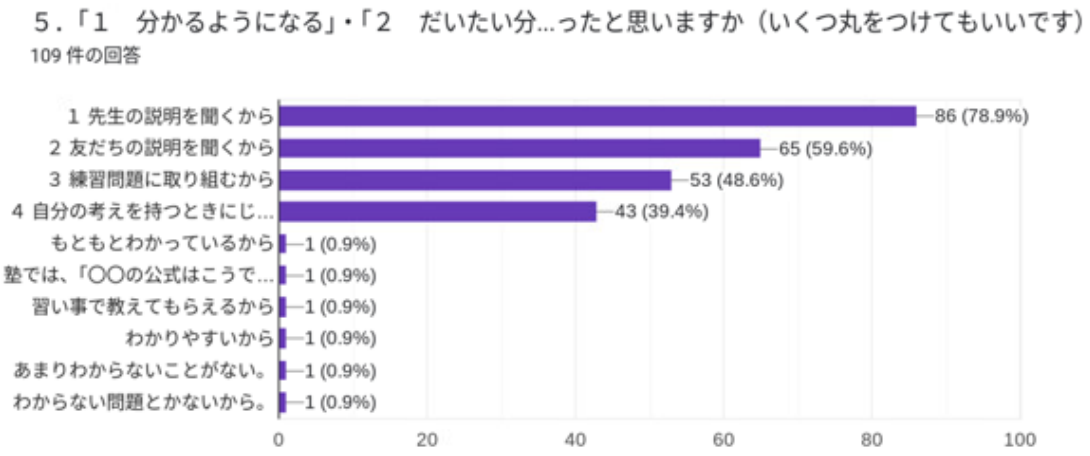
４．適用問題に取り組む場面では，個別学習として個々のペースで取り組むことができたこと

など，場面によっての効果的な利用を考えて授業づくりができた。

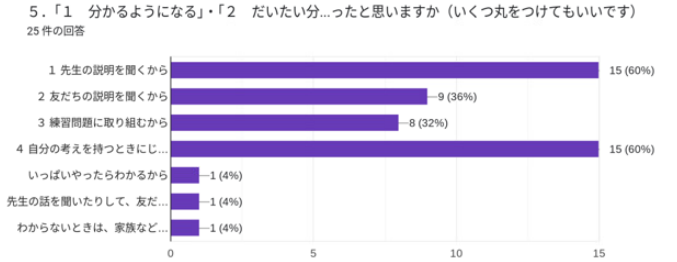
２つ目は，学習のねらいに沿った適切なアプリが使えるようになってきたことである。様々な単元で，教師自身が利用できるようになった。また児童のタイピング力が向上し，それと共に，ドキュメント，スライド，オクリンク，フォームでのアンケート作成など，児童自身も様々な場面で活用できるようになった。ドキュメントを使用して作品を作った場合は，児童に返すところまでできた。

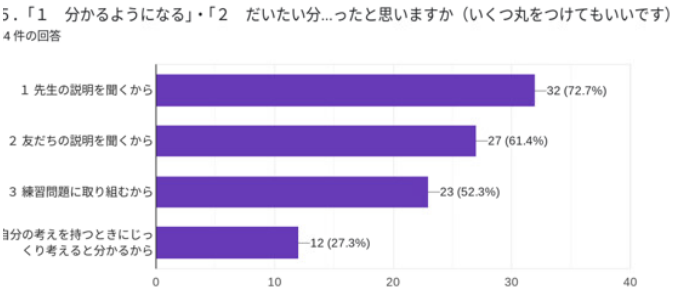
反面，ICT の利用により個々の考えが共有しやすくなり，協働的な活動がより円滑になる

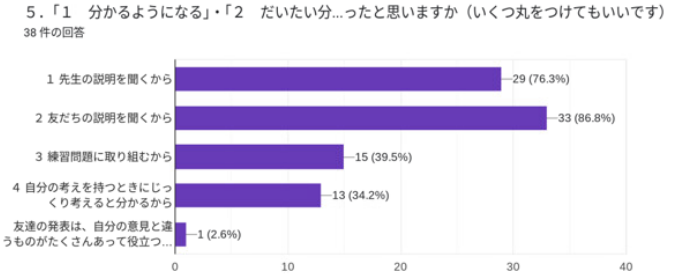
という強みが生かし切れていないという課題が残った。「考えを共有する」ことで終わってしまい，その後，どういった目的で話し合い，その中で児童自身何に気づいたのか，どういった次の課題が見えてきたのかといった学び合いにつながっていないのはないか。これらは，算数アンケートの結果からも読み取れる。学習がわかるようになる理由として「友達からの説明を聞くから」をあげる児童が一定数いるが，「先生の説明を聞くから」を下回っている傾向がある。課題への答えを教師が話してしまい，まとめを教師の言葉でして安心してしまい振り返りを大事にする意識が低いのではないかと考えられる。



（1 学期はじめ）







そこで，今年度は，副題を「～ICT 機器を活用し，学び合いのある授業づくりを目指して～」と設定し，学び合いのある授業，児童同士での対話的な学びのある授業を目指していきたい。教師が教える授業から児童同士で分からないことを教え合ったり，課題について話し合い自分たちなりのまとめをしたり解決したりしていくのである。その過程こそが「学ぶ楽しさ」につながると考えるからである。そのためには，単元全体の展開を十分考える必要がある。概念を掴み合っていく時間，技能を練習して習得する時間，さらなる課題へ活用を考える時間，教師自身が教材研究を深め，学習の展開，学習形態を考えていきたい。

取り組みの重点項目としては，以下の点を考えている。

①学び合いの場の設定。

どういった目的で，どのタイミングで，どの学習形態をとるのかを考えて，45 分の授業を展開していくかを考えていきたい。　一斉に話し合って深めるのか，ペアで意見を交流して練習するのか，わかったことを確認するのか，グループで話し合って意見を持ち合おうとするのか，構成グループについても，同じ意見のグループなのか違う意見なのか，学力を考えたグループなのか，ABCD 層を混合にしたグループなのか教師は考えていく必要がある。

②授業の中での教師の発問，取り上げる児童の意見の選択。

普段の授業・事前研を通して，事前に児童から出そうな意見を予想し考えていきたい。そして，児童の言葉を拾いながら授業のまとめをしていきたい。また，事後研の中では，子どもの発達段階を確かめ合ったり，児童の思考に沿って「自分だったら…」と教師自身が考えたりして力を磨いていきたい。

③個に学びを定着させる

継続していきたい。

今年度は，３つの重点項目について考えながら日々の授業に取り組み，研究に取り組んでいきたい。

尚，ICT 機器の活用については依然教師間に差はあるものの，拡大投影機も使いながら授業を進めていきたい。自主研修会などで，活用場面について交流しながら，教師の活用能力も高めていきたい。

3　研究構想図

学校教育目標　「思いやりをもち，自ら考え，意欲的に取り組む子の育成」

めざす学校像　安心して過ごせる学校「今日が楽しく，明日が待たれる学校」
確かな学力・豊かな人間性・健やかな身体を育む学校

研究主題　どの子も「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる算数科教育
～ICT 機器を用いた学び合いのある授業づくりを目指して～

めざす子ども像

	低学年	中学年	高学年
自ら学び（主体的）	・基本的な言葉や数・式や，知識をもとに自分なりの考えがもてる子	・言葉や数・式・図・表・グラフなどを活用して自分の考えをもてる子	・言葉や数・式・図・表・グラフや既習事項を活用して自分の考えをもてる子
他者から学び（対話的）	・自分の考えを発表し，人の話を聴くことができる子	・自分の考えを発表し，人の考えと比べながら聴くことができる子	・算数的用語を用いて自分の考えを説明したり，人の考え方と比べたりしながら聴くことができる子
他者と学ぶ（深い学び）	・聴き合うことを通して，相手と自分の考えをつなげる子	・聴き合うことを通して，多様な考えをつなげ，解決方法や表現方法を見いだす子	・聴き合うことを通して，多様な考えをつなげ，より質の高い解決方法や表現方法を見いだす子

主体的・対話的な深い学び

具体的な取組

(1)どの子も「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる授業づくり
- 重点項目１「学び合いの場の設定」
  →目的を明確にすること
- 重点項目２「教師の発問と取り上げる児童の意見の選択」
  →日常的な取り組み，事後研での確認
- 重点項目３「個に学びを定着させる」（単元を通して達成する）

(2)「学ぶ楽しさ」が実感できる環境づくり
- 学習規律の共通理解・徹底
- 教室の話型の掲示・活用
- 各学年の教育活動の様子の掲示
- 算数クイズの掲示
- 自主学習の啓発

(3)「自分の思いを出し，認め合える」学級集団づくり（人権部との連携）
- 「分からない」と言える雰囲気づくり
- 相手の意見を尊重できる姿勢の育成
- 友だちが受け止めやすい言葉を選ぶ力の育成
- あきらめずに取り組む力の育成
  →学ぶ意欲の向上

(4)みんなが同じ方向を向かい，チーム力のある校内研修
- 年間を通しての，研修テーマの意識づけ
- 全員で改善点を探る事後検討会をはじめとする校内研修の実施
- 教師自身も楽しく学べる校内研修の充実
  →自主研修会，授業公開
- 家庭学習・授業規律の，年間での検討
  →学ぶ意欲の向上

４　日常的な取組

（１）研究授業について

・算数科の全体提案授業３学年（低中高），他の学年は，人権の授業提案（算数科の授業研究には日常的に取り組むが，指導案を書いての提案授業は行わない。ただし年度末に算数科の成果と課題はまとめる。）

・１学期から研究授業を入れる。（１学期１つ。２学期２つ。）３学期には来年度に向けてまとめていけるようにする。

・ICT 機器は使う。しかし，子ども達同士での学び合いに重きが置かれる。その中で，どの子どもの発言を拾うのか，教師がなんと言って子どもに返していくのか，常に自分だったらと考え，子どもの言葉に対応できる力を磨きたい。

・事前に授業に取り組み，学年部会で指導案・本時について検討すること。指導案配付は，授業日の前の週の金曜日 17 時までとし，それぞれが読み込んで研修会に参加できるようにする。事後検討会はもつ。（事後検討会には教育指導課より講師を招く。）

・事後検討会は司会を研修長・副研修長が行い，焦点を絞って研修を進めていけるようにする。原則１人１発表とする。授業者に成果や課題を伝えることとする。また，自分だったら…という視点での意見（どの子どもの意見にどう反応するのか，今年は特に言えるようにする。

・全体提案する教員以外も，全員が一度は授業公開を行う。（実施日を事前に知らせ，指導案（略案）を配付する。算数の事前研か人権の指導案となる。）

・各自でしっかりと授業記録をとる。

（２）校内研修

・４年生以上は，年に２回，算数アンケートを実施。分析して児童の実態をつかむ。

・各担任で４月早い段階でレディネステストに取り組みクラスの児童の学習定着度を把握する。全体での集約はしない。

・夏期研修では，講師の先生を招いての校内研修会，全国学力・学習状況調査，みえスタディチェックの分析，夏期研修還流会を行っていく。

・学期に１回は自主研修会を行うことで，校内で研修を深める機会を作っていく。

（３）朝のモジュールタイム（毎週月・木・金曜日）

・月・木・金曜日の朝のモジュールタイム 15 分（８：２５～８：４０）を，国語１コマとしてカウントする。（３～６年）

・１，２年は朝の読書や発達段階に適した学習を行う。

・今年度は，市教委作成の読む書くワークシートに取り組むこととする。週に１回，基本，木曜日の朝学習の時間をあてることとする。この日に取り組めない場合は，別日に設定する。
・低学年は，硬筆の学習教材としてうつしまるに取り組んでもよい。（おすすめ。学年で検討）（中・高学年も学年で検討）
・８：２５には，どのクラスも確実に静かに朝のモジュールタイムが始められるようにする。

＜朝の読書＞
・マンガ（学習マンガはよい）やミッケは除く。

（４）補充学習（毎週火曜日）※ボランティアなし
・算数の補充学習を行う。
・四則計算の計算プリントや応用問題や文章題のプリントに取り組む。（３～６年）
・個別学習の充実にも，活用していく。（九九，繰り下がりなど）

（５）朝の読み聞かせ（毎週水曜日）※ボランティアあり　（希望制）
・学年で相談して，来ていただく日や回数を決める。

（６）家庭学習について
・家庭学習３点セット（音読・計算・漢字）をどのクラスでも行う。学年で量をそろえる。
・４年生から，少しずつ自主学習も行っていく。学年で出し方を統一して行っていく。３年生は，児童の実態に応じて，取り組みを開始する。
・実態に応じて，日記，プリント等に代えることもある。
・宿題は，なるべくその日のうちに目を通し，児童に返却する。
・自主学習は，児童の意欲を高めるための工夫（コメント，紹介など）をする。
・学習時間は「１０分×学年」となるようにし，学年に応じて，自主学習を増やしていく。
※この１年で，何度か学年で話し合う機会を持ち，一番児童に力がつく方法を考えていく。
・Chromebook を週に１～３回くらい持ち帰り，３点セット４点セットの代わりに家庭学習として課題を出す。（端末管理台帳は学期ごとにチェックしていればよい。）ただし，学年では大体揃えたい。

（７）年間学習指導計画の確認

・昨年度末に作った年間学習指導計画を４月中に見直し，一年の計画を立てる。
研究授業をいつ頃，どの単元で行うかも，合わせて見通しを立てておく。

・新担任は４月中に新しく学習指導計画を加筆修正をすること。

（８）学習のきまり

・４月に加佐登小学校の学習のきまり（特に持ち物）を配付し，全校での統一をはかる。

→児童全員に配付し，４月当初に学級指導をする。９月と１月にも，きまりを配付はしないが学級指導を行う。

→月１回ほど全校でもちものチェックをし，意識づけていく。

・昨年度から４年生以上は赤ペン青ペンの使用が認められた。
しかし，持ち物・使用方法に乱れがあったので，今年度は，年度初めに買い揃えるとか，ノック式でなくキャップ式にするとか指導が必要。

５　研究組織

全体研修

	教科研修部	生活指導部
１年		
２年		
３年		
４年		
５年		
６年		
特支		
専科		
養護		
栄養		

低学年部	中学年部	高学年部

６　その他

（１）校内研修

・研究授業の運営全般・日程調整・講師の先生との打ち合わせ
・研修に関する校内研修会の計画
・指導案の提案
・教育委員会提出文書，派遣文書等の作成
・研修担当者会議への参加

（２）自主研修会

・自主研修会，授業公開の企画・運営（ICT の活用，各教科，自主学習の取り組み方など）

（３）学力向上

・算数アンケートの作成・提案，結果分析の声かけ
・全国学力学習状況調査，みえスタディチェックの連絡調整
・成果と課題から対策を考え，推進していく。
・指導課作成「読む・書くワークシート」読売新聞のよむ YOMU シートの準備と印刷依頼。
・全国学力・学習状況調査，みえスタディチェックの分析・検討を行う校内研修会の企画（司会）
・教研推進委員会への参加（今年度のみ）
・学力向上担当者会議への参加（研修長と相談）

（４）家庭学習・学習の決まり

・火曜日の補充学習の提案・作成
・家庭学習の約束の見直し・配付
・学習の決まりの見直し・配付

（５）学習支援ボランティア

・ボランティア要請の声掛けと取りまとめ
・ボランティアとの連絡調整（人が決まったら，あとは学年に任せる）
・ボランティア集会の計画・進行

（６）教育環境

・学習規律について

・話型の活用，全クラスの教室に掲示，活用の啓発

・年度初めと終わりの教具の管理

・算数クイズの掲示の提案，推進

（７)図書館教育

・読み聞かせボランティアと連絡し,水曜日の読み聞かせを進める。(希望制)

・読書活動の推進

・図書館運営

（８)キャリア教育

・キャリアパスポートの推進

・キャリア教育に含まれる教育活動の提案（すずか夢工房の窓口）

・年間計画の取りまとめ

（９)ICT 部会

・ICT 担当者会議や校区の連絡会など，校外の会議への参加（森本）

・充電コードや PC などの修理及び破損等の備品管理や台帳管理（小瀧）

・児童名簿の作成・管理・更新

・ICT の効果的な使用方法の紹介（自主研担当や研修長と相談しながら）

・岡部さんとの連携

（１０）鈴教研

・班研修　原則第２水曜日（４，７，９，２，３月は行わない。）　名簿作成

・鈴教研についての連絡　　教育研究集会の参加者の取りまとめ

・鈴教研発表に向けての準備，連絡調整

（１１）学習年間指導計画

・学習年間指導計画の提案，取りまとめ

（１２）評価

・あゆみ・指導要録の評価基準，記入事項記入方法の提案

・保護者への連絡文

７　年間研修計画

一学期	４月　職員会議（今年度の研修　主題・目的について） 校内研修会（今年度の研修・指導年間計画・研究授業・指導案の書き方・研究授業の報告書の書き方について） ５月　職員会議（算数アンケート結果および分析，学習・読み聞かせボランティア，補充学習について） ６月　学年研修（教材研究・指導計画・指導案検討） ４年　全体研究授業（算数科）（事後検討会） 年　学年研究授業（人権関係） ７月　校内研修会 ８月　校内研修会 （教材研究・指導計画・指導案検討，全国学力学習状況調査結果分析など） ※随時，学年研修や自主研修会を行う。
二学期	９月　６年　全体研究授業（事後検討会） １０月　校内研修 １１月　２年　全体研究授業（事後検討会） ９月～１２月　学年部研究授業（算数科）（事後研修） 人権関係の研究授業（事後研） ※随時，学年研修や自主研修会を行う。 １２月　今年度の反省（各学年で）
三学期	１月　研修部会（今年度の反省とまとめ） ２月　校内研修会（今年度研修の成果と課題） 研究集録作成 ３月　校内研修会　（来年度の研修に向けて）